

第二十三回定例公演

公益社団法人能楽協会九州支部

ほおずき能



狂言 二人袴

淡田 昭典

能 安達原

久保誠一郎

白頭
急進之出

令和5年

8月27日(日)

13:00開演 [12:00開場]

大濠公園能楽堂

福岡市中央区大濠公園1-5 TEL092-715-2155

全席自由

一般 5,000円(当日5,500円)

学生 2,000円 ※未就学児入場不可

プレイガイド

◆大濠公園能楽堂 092-715-2155

◆チケットぴあ

WEBまたはセブンイレブンにて販売 [Pコード 518-463]

◆ローソンチケット

WEBまたはローソン、ミニストップにて販売 [Lコード 83941]

《事前講座》

8月6日(日) 14:00開演 (13:30開場/15:00終了予定)

会場/大濠公園能楽堂楽屋(楽屋入口より入場)

入場料/1,000円(チケット購入者無料)



交通アクセス

■地下鉄
「大濠公園」または「唐人町」下車
徒歩7分

■西鉄バス
「黒門」または「大濠公園」下車
徒歩5分

主催/公益社団法人能楽協会九州支部

後援/福岡県 福岡市

第二十三回定例公演 公益社団法人能楽協会九州支部

ほおずき能

舞囃子(観世流)

小袖曾我

鷹尾 章弘 大鼓 白坂 信行
鷹尾 維教 小鼓 古田寛二郎

笛 相原 一彦

地謡

小倉要二郎 今村 一夫
今村嘉太郎 今村 嘉伸
森本 哲郎

仕舞(喜多流)

栗谷 充雄

地謡

渡辺 康喜
大島 輝久
工藤 義彦

仕舞(観世流)

菊本 美貴

地謡

多久島法子
菊本 澄代
今村 宮子
木月 晶子

仕舞(金春流)

田中 秀実

地謡

北山 春彦
東 軍三
田中 寿男

舞囃子(宝生流)

雲林院

東川 光夫 大鼓 白坂 信行
小鼓 古田寛二郎

太鼓 田中 達
笛 相原 一彦

地謡

久貫 弘能
山岡 晴美
石黒 実都

狂言(大蔵流)

二人袴

婿 洪田 昭典

親 川邊 宏貴
舅 中島 清幸
太郎冠者 秋吉 英二

〈休憩 二十分〉

能(観世流)

里女 鬼女 久保誠一郎

安達原

山伏 御厨 誠吾
供山伏 坂苗

大鼓 白坂 保行 太鼓 田中 達
小鼓 横山 幸彦 笛 森田 光次

白頭 急進之出

能力 野村 万禄

後見 井内 政徳
坂口 信男

地謡

小倉要二郎 鷹尾 章弘
今村嘉太郎 鷹尾 維教
山口剛一郎 多久島利之
今村 一夫 森本 哲郎

終了予定 16時頃

◎仕舞 一曲の舞所を紋付・袴にて、囃子を入れずに舞う事。

◎舞囃子 一曲の主要な部分を紋付・袴にて、囃子を入れて舞う事。

※演能中の写真撮影および録音・録画はご遠慮ください。
※能楽堂の見所内での飲食はご遠慮ください。

●演目解説●

狂言「二人袴」

世間知らずの婿は婿入りに一人で
行くのが恥ずかし、親に舅の家
まで付き添ってもらう。親は直ち
に引き返すつもりだったが、太郎
冠者に止められ、座敷へ出る事と
なる。しかし袴が一枚しかないの
で、二人で交代に袴を着る奇妙な
酒宴が始まるが、さて、結末は？

能「安達原」

萩小屋が舞台正面の奥に据えられ
る。荒野の一軒家である。山伏佑
慶及び供の山伏が陸奥の安達原に
着く。一軒家の灯を見かけ、宿を
借りるべく近寄る。萩小屋の中に
座る老婆は、はかない孤独の境遇
を語り、山伏のたつての乞いに一
夜の宿を貸すべく戸を開けた。老
婆は、舞台の正面先に立された糸
繰で糸を紡ぎつつ、独り生き長ら
えた事を語り、糸尽くしの文句を
連ね語り、月影に見入るのであつ
たが、裏山に薪を取りに行くと言
い、帰るまで寢室の中は覗くこと
念入りに言い聞かせた。供の能力
(荷物持ち)は、覗くことあまり
に言われて不審に思い、山伏達の
寝静まったのを確かめ寢室の中を
見て仰天。中には死体が山積み。
能力の騒ぎで山伏は鬼の住処だと
確信し逃げようとする。そこへ鬼
を打つ杖を振りかざして襲いか
かる。鬼女は山伏の必死の祈りに
祈り伏せられ、嵐風に紛れて消え
失せる。

《予告》

公益社団法人能楽協会九州支部 普及公演

クリスマス能

令和5年12月24日(日)14時開演

大濠公園能楽堂

◇入場料/全席自由 3,500円

能(観世流)「百萬法楽之舞」 多久島法子

狂言(和泉流)「隠狸」 野村万禄/吉住謙

他、舞囃子、仕舞